

イザヤ書 40 章 1-11 節 「慰めのメッセージ」

イザヤ書40章から55章までは第二イザヤと呼ばれ、ペルシヤ帝国が勃興する時代を背景としています。多くの民はバビロンに捕囚され、都エルサレムは荒廃し、バビロニアはその国運が傾き、ペルシヤ王キュロス(B.C.557～529年)が現れて、バビロニア軍を破り、捕囚の民イスラエルに解放を告げる時代でした。長い間隠れたまま応答をしなかった神が現れ、第二イザヤに語るべき預言を与えました。彼は民に捕囚からの解放の 때가来たことを告げ、神が民の罪を赦してくださったことを説き続けました。

1章から39章までは「懲らしめよ」だったのが、40章から「慰めよ」になります。懲らしめの後には慰めがきます。もう罪に悩む必要はない。いつまでも悲しんでいなくてもいい。あなたに必要なことはただ悔い改めて、神の救いの御業を信じるだけだ、と神さまは優しく語りかけてくださいます。さらに神さまはそのすべての罪に引き替え、二倍のものを主から受けると約束してくださいました。なんと慰めに満ちた言葉でしょうか。そのようにして神はあなたを罪の縄目から解放してくださったのですから、その道を整えなさいということです。あなたの道は整えられているでしょうか。プライドや傲慢といった山や丘があれば削られて低くされなければなりません。障害物は取り除かれ、でこぼこ道は平らに整えなければならないのです。

そして6節以降に、もう一つの声が出てきます。それは「呼びかけよ」と言う者の声です。すべての人は草のようであると。また、花のようでもあるということ。草のようであるというのは枯れるということ、また、花のようであるというのはしぼむということ。人はみなこの草や花のようだというのです。実に人間は虚しい存在なのです。実はこれが慰めなのです。この現実をしっかりと見つめ、それを額面通り受け止めるなら、それが慰めになるのです。人生はそんなに長くありません。その事実を受け入れて、その先にあるものを希望として生きていくなら、慰められます。そして9節以降で、さらに慰めが続きます。良い知らせ、Goodnews がやってくる、神の到来の預言がなされるのです。捕囚から解放されるイスラエルが、その力を持っておられる方が、私たちのためにおられるという希望です。その方がどんな方なのか、11節に「羊飼い」としての神さまが語られています。イスラエルが祖国に帰還するだけでなく、隠された神が再び現れる希望が告げられ、喜び歌われています。それは王や政治的指導者としての牧者像をはるかにこえている、歴史を支配する<良い羊飼い>としての主なる神です。慰めのメッセージとして語られたイザヤ書40章の言葉は、世に来られたキリストを預言しています。目先のことで一喜一憂する人生から、いつまでも変わらない神の約束の言葉に立った確かな人生を歩んでいただきたいのです。これが真の慰めのメッセージなのです。